

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 心理学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季
専門科目	博士後期課程《一般》 研修生	

【1】

《解答又は解答例》

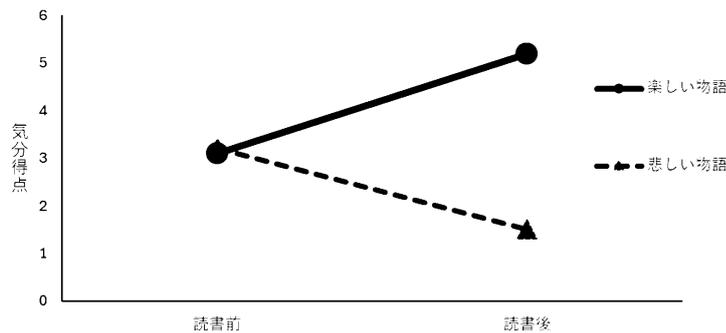
- 問1-1. 従属変数は気分尺度得点とし、2（物語の属性：楽しい・悲しい）×2（測定時期：読書前・読書後）の混合計画を行う。物語の属性は参加者間で測定時期を参加者内とする。
- 問1-2. 参加者40名を無作為に2つの物語属性の条件に均等に割り当てる。
- 問1-3. 材料の統制のために、あらかじめ予備調査を行う。
参加者は実験に参加しない大学生20名とする。文字数が同じくらいの楽しい物語と悲しい物語を3つずつ用意する。また、楽しい物語の属性を表す質問項目として「元気になる内容」と「明るい内容」を、悲しい物語の属性を表す質問項目として「泣ける内容」と「切ない内容」を用意する。
参加者に1つの物語を読ませ、直後に4つの質問項目について、どのくらい当てはまるかについて6件法で評定させる。適宜、休憩をはさみ、すべての物語を読ませ、評価させる。なお、質問項目の提示順や物語のそれはカウンターバランスをとる。
楽しい／悲しい物語の属性を表す質問項目2つをそれぞれ平均した値を従属変数とし、1要因6水準の参加者内分散分析を行う。楽しい／悲しい物語属性得点のみがそれぞれ高い物語上位2作品を楽しい／悲しい物語として、実験に使用する。なお、各条件2作品を選出する理由は、結果の一般化のためである。
- 問1-4. 実験開始前に実験内容や結果のフィードバックの方法について説明を行い、参加者から同意を得る。同意を得られた参加者のみ次の手続きを行う。最初に、気分尺度に回答してもらう。その後、無作為に割り当てられた条件のために用意された2つの材料のうち無作為に割り当てられた物語材料の1つを読んでもらう。その後、物語に関する簡単な内容理解質問2問について正誤判断をさせる。直後に、再び気分尺度に回答してもらう。なお、気分尺度の質問項目は順序効果を相殺するために、カウンターバランスをとる。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 心理学専攻 修士課程《一般》 博士後期課程《一般》 研修生	2026年度 春季
専門科目		

問2-1. 下記の図のように、4つの数字を適切に折れ線グラフには反映し、見やすい構図になっている。また、タイトル、軸ラベル、凡例が含まれている。

物語の属性別における読書前後の気分の変化



問2-2. 物語の属性と測定時期の交互作用が有意であった。具体的には、読書前では、2つの条件間に有意差は認められなかった。楽しい物語条件では、読書前よりも読書後において気分得点は有意に上昇し、悲しい物語条件では、その得点は有意に低下した。また、読書後には楽しい物語条件の方が悲しい物語条件よりも気分得点は有意に高かった。

問2-3. 本実験の目的は、特定の属性を持つ物語を読んで、その物語の内容によって読み手の感情の変化を検証することである。そのため、物語を読んで理解していることが前提である。きちんと読んでいるかどうかを確認するために、簡単な内容理解質問を用意し、解答してもらった。それに通過しなかった参加者は、物語を読んでいないと考えられ、物語の属性によって気分が変化することはないと考えられる。あるいは、もし変化した場合には、物語を読むこと以外の剰余変数によって生起したと考えられる。そのため、内容理解質問に正解しなかった参加者のデータを削除した。

《出題の意図》

- 問1-1. 実験の要因計画を理解し、適切に計画を立てられる。
- 問1-2. 参加者の割り当てに関する実験の統制の方法を理解している。
- 問1-3. 実験材料の統制の方法を理解している。
- 問1-4. 実験の手続きを理解して、適切な手続きを立案できる。
- 問2-1. 適切なグラフ作成の知識があり、それを図示できる。
- 問2-2. 結果の書き方に関する知識があり、それを記述できる。
- 問2-3. 実験実施上の参加者の統制の知識やその方法を理解している。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 心理学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季
専門科目	博士後期課程《一般》 研修生	

【2】

《解答又は解答例》

2-1. 弁別と般化

オペラント条件づけやレスポナント条件づけにおいて刺激が行動を引き起こす機能を獲得した時に、それ以外の刺激がその行動を引き起こさなくなる現象を弁別、類似した刺激がその行動を引き起こす現象を般化と呼ぶ。弁別は刺激とそれ以外の刺激を条件を変えて提示することで促進される。オペラント条件づけであれば反応を強化する条件と消去する条件、レスポナント条件であれば無条件刺激と対提示する条件としない条件を用いる。

2-2. 達成目標理論

達成場面において個人が持つ目標の志向性に関する理論。達成目標は、自己の能力の向上や成長を志向する熟達目標と、他者からの評価や結果、成績の高さを志向する遂行目標に分類される。熟達目標志向のもとでは、結果よりも過程が重視されるのに対し、遂行目標志向のもとでは、自身の成績や他者からの評価に関心が向けられ、過程よりも結果が重視される。熟達－遂行の次元に、接近－回避の次元がかけ合わされることもある。

2-3. 延滞模倣

延滞模倣とは、乳幼児が他者の行動をすぐにはなく、時間が経過した後に再現する模倣行動を指す。モデルとなる行動を一時的に記憶し、その表象を保持したうえで後に実行する点に特徴があり、単なる刺激への即時反応ではない。直接的な刺激がなくてもイメージや記憶を保持し、後から思い出すことができるという「表象機能（心の中にイメージを保持する能力）」の発達を示す重要な指標の一つである。

2-4. (分散分析における) 交互作用

交互作用とは、分散分析において、ある独立変数の効果が他の独立変数の水準によって異なることを指す概念である。すなわち、一方の要因の影響が常に一定ではなく、別の要因と組み合わせることで変化する場合に交互作用が生じる。交互作用が有意である場合、個々の要因の主効果のみから結果を解釈することは不適切であり、要因の組み合わせに注目した単純主効果の検討が必要となる。

2-5. 4枚カード問題

4枚カード問題は片面にアルファベットが、その裏面に数字が書かれている4枚のカードから構成されている推論課題である。「A, K, 4, 7」を表にして「片面が母音であればそのカードの裏面は偶数である」という規則を確かめるためには、どのカードを裏返す必要があるかを選ばせ

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 心理学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季
専門科目	博士後期課程《一般》 研修生	

る。多くの人には間違った4のカードを選択する。これは人が反証ではなく、仮説を支持する証拠を見つけようとする確証バイアスによって説明される。

2-6. ストレス反応

ストレス反応とは、外的または内的な要求や脅威（ストレッサー）に直面した際に、生体が恒常性を維持・回復するために示す一連の生理・心理・行動的变化を指す。自律神経系や内分泌系が関与し、交感神経系の活性化による血圧の上昇、コルチゾールの分泌の増加、注意や感情の変容などを伴う。これらは短期的にはストレッサーへの対処行動を促すが、過度または慢性化する場合は心身の健康に悪影響を及ぼすことがある。

2-7. ラベリング理論

社会学者のベッカーによって提唱された逸脱行動についての理論で、逸脱は社会システムが特定の行為や行為者を「逸脱」あるいは「逸脱者」とラベル付けし、その結果、レッテルを貼られたものが、自己認識を変えて逸脱者としてのアイデンティティを形成することによって生じるものであるというもの。この理論は、逸脱の原因が逸脱者本人でなく、それを統制するシステム側にあることを指摘した点で重要である。

2-8. 闘争＝逃走反応

外的脅威や強いストレスに直面した際に、交感神経系活動の亢進、心拍数や呼吸数の増大、筋緊張などを引き起こす生理的反応を「闘争＝逃走反応」という。生存確率を高めるために、外的脅威に対して“闘う”か“逃げる”かを即時に選択しうる適応的機能であるとされている。この反応にはアドレナリンやノルアドレナリンの分泌が中心的な役割を果たす。

2-9. 脳画像研究（ニューロイメージング研究）

脳画像研究とは、脳の構造や活動を可視化して刺激や行動と神経活動との関連を調べる研究方法である。可視化のためには、機能的磁気共鳴画像法、脳磁図、近赤外分光法といった技術が利用される。脳画像研究を行うことで、知覚や認知をはじめ様々な精神活動に脳の各部位がどのように関わるかを検証することができる。一方で、多くの場合は刺激や行動と神経活動との相関を測定しているにすぎないことも留意が必要である。

2-10. 自己効力感

自己効力感とは、ある結果を生み出すために必要とされる行動を自分がうまく実行することができるという確信のことであり、バンデューラの自己効力理論における効力期待に関する認知を指す。自身の自己効力感を判断する際の情報源として、「遂行行動の達成」、「代理的経験」、「言語的

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 心理学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季
専門科目	博士後期課程《一般》 研修生	

説得」,「情動的喚起」が挙げられる。また,自己効力感は,大きさ(水準),強度,一般性といった複数の次元で検討される。

《出題の意図》

心理学の複数の専門領域に関する基礎的な知識を持っていることを確認するための出題である。出題にあたっては心理学検定で公表されている用語から選出するようにし,領域や問題の難易度に偏りが生じないように配慮している。